主催　愛知大学東亜同文書院大学記念センター／文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

東亜同文書院の中国研究
―その現代的意味

愛知大学の前身の一つである東亜同文書院は、20世紀前半の中国をどのようにとらえていたのか、その研究成果の現代的意味は何か、を考えます。

現在、社会主義を放棄した中国が市場経済を突き進む中、見えてくる姿はいったい何か、100年程前の中国を同時代として見ていた同文書院の中国研究から何を継承すべきか、何を批判すべきか、日本と中国だけでなく、欧米の視点からも考えていきたいと思います。

10:00～10:10　趣旨説明

10:10～11:30　基調講演

ダグラス・レイノルズ（ジョージア州立大学教授）

"To-A Do-bun Shoin and Its China Study Curriculum: A Global Perspective."

11:30～12:15　大学記念館ギャラリートーク（入館無料）

13:00～13:45　三好　章（愛知大学東亜同文書院大学記念センター長）

「東亜同文書院の20世紀中国社会論―根岸佶と内田直作を例として」

13:45～14:30　湯原　健一（潮州韓山師範学院講師）

「語学学習者の受け皿としての満洲」

14:30～14:40　休　憩

14:40～15:25　ニキ・ケンジ（元ミシガン大学ライブラリアン）

『東亜同文書院との私的出会いについて』―北米に於ける極東アジア学とその資料―

15:25～16:10　石井　知章（明治大学教授）

「根岸佶と中国ギルドの研究」

16:10～16:25　休　憩

16:25～17:30　総合討論

とき　2014年12月13日（土）

ところ　愛知大学豊橋校舎　記念会館小講堂

予約不要・入場無料

当日は大学記念館展示室もご覧いただけます（入館無料）

【お問い合わせ】　愛知大学東亜同文書院大学記念センター

愛知大学 AICHI UNIVERSITY

Tel 0532-47-4139　E-mail ： toa@ml.aichi-u.ac.jp

ホームページアドレス　http://www.aichi-u.ac.jp/orc/index.html